資料－６

第４回有識者会議に係る事前の意見聴取結果について

日　　時：１月 25 日（水）１４時～１５時
開催方法：WEB 会議
相 手 方：西垣委員
当　　方：事務局（京都府建設交通部水環境対策課）
主な御意見（⇒対応）

① パブリックコメントが 23 名、39 件というのは、上下水道関係の計画としては、多い方だと思う。修正に繋がる意見が出たことは大変よいこと。

② パブリックコメントでは、どのような府民意見があったのか、本構想の中で、記載してはどうか。(例えば、広域化・共同化に賛同する意見が多数あったことなど)
⇒【最終案の修正】
最終案 P.3 (3)京都府民意見提出手続きに関わる意見募集(パブリックコメント)に意見の概要を追記しました。

③ パブコメ意見１－１３について、費用負担の具体的な試算などは今後実施予定である旨を府の考え方の中で説明してはどうか。
⇒【府の考え方の修正①】
資料－３ パブコメ意見1－13に対する府の考え方について、意見を踏まえ説明を追記しました。

④ パブコメ意見１－２１について、脱炭素化の目標設定などは今後求められることなので、次回の計画には盛り込む必要があるのではないかと考える。

⑤ パブコメ意見２－２について、本構想の未普及解消の取組に記載している「自治体間の連携が必要である」ことを、府の考え方でも示してはどうか。
⇒【府の考え方の修正②】
資料－３ パブコメ意見2－2に対する府の考え方について、意見を踏まえ説明を追記しました。

（次のページに修正内容を示しています。）

【最終案の修正】（最終案 P.3）

(3)　京都府民意見提出手続きに関わる意見募集（パブリックコメント） 23 名の方から、39 件の意見の提出がありました。内容としては、持続可能な汚水処理事業の運営に向けた広域化・共同化の推進に関する賛同意見が多く、その他、脱炭素化の推進に関する意見や、より分かりやすい説明となるよう工夫を求める提案などがあり、必要な意見を計画に反映しました。 ３

【府の考え方の修正①】

１－１３ 広域化・共同化のハード連携一覧によると、宇治田原浄化センターも対象となっている。地方新聞によれば、宇治田原町の水道事業経営等審議会では、広域化に向けての検討がなされているというような報道もあったが、住民への説明はない。もし近隣市町と広域化するとなると、長距離に及ぶ下水道管の敷設が必要となる。城陽市につなぐのか、宇治市につなぐのかわからないが、どちらにしても敷設にかかる費用は莫大となるのではないか。その費用はいくらぐらいなのか、宇治田原町としての費用負担はどのくらいなのか、資料には一切書かれていない。そんな状況で、意見を聞かれても、答えようがない。物価高騰の中で、下水道料金まで値上げというのは、住民生活に大きな支障を来す。きちんと情報を公開したうえで広く住民の意見を聞いてほしい。	本構想の一部に位置づける「広域化・共同化計画」のメニューに、「流域下水道への公共下水道編入」を挙げ、可能性検討を進めることとしています。 費用負担の具体的な試算などは、今後実施予定です。

【府の考え方の修正②】

２－２ 国では令和８年度までに、都道府県単位での汚水処理人口普及率を９５％以上とすることを目標としているようだが、既に京都府の汚水処理人口普及率は国の目標を超えている。 このような状況の中でも、新計画案において、汚水処理事業の現状と課題の中で、汚水処理人口普及率の推移と汚水処理施設整備の現状が挙げられており、新計画案に掲げる柱の１つにも未普及解消が掲げられている。 下水道が整備されていない地域に住む者としては、地方の現状にも配慮いただき感謝する次第である。 現在、私の住んでいる京丹後市では、あちこちで下水道の工事を行っている。新計画案によれば令和８年度でもまだ汚水処理人口普及率が目標に達しないようである。令和８年度を目標とする以上、これまで以上に整備を進めるとともに、市と府で協力してできる限り早期に整備が進むようお願いする。	本構想では、快適な生活環境や良好な水環境保全を図るべく、整備手法の見直しや共同浄化槽の導入、市町村間の連携などにより、令和８年度末の汚水処理人口普及率 99.1％を目指して、汚水処理施設の整備を加速化させることとしています。